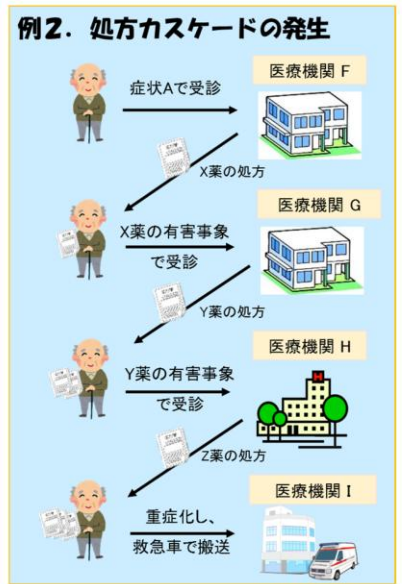
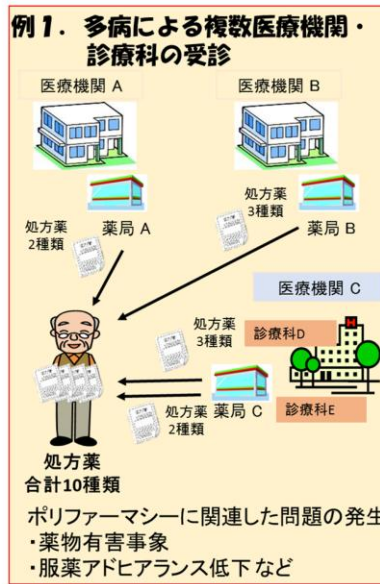


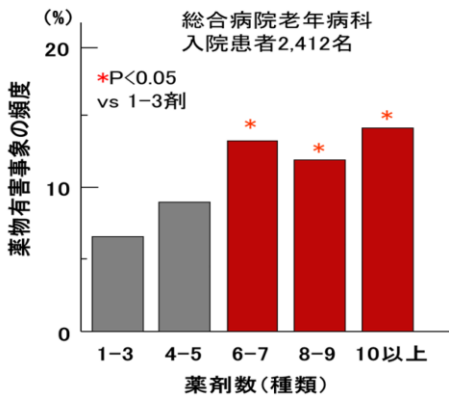
ポイントで整理する「ポリファーマシー」について

ポリファーマシーとは、単に服用する薬剤数が多いことではなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス低下等の問題につながる状態を指します。（**多剤服用の中でも害をなすもの＝ポリファーマシー**）

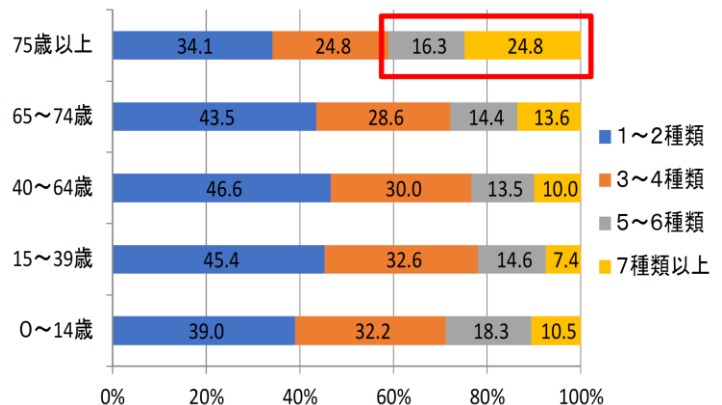
①新たな医療機関の受診による服用薬の積み重ね、②薬物有害事象に薬剤で対処し続けるいわゆる「処方カスケード」の発生、によりポリファーマシーが形成される可能性があります。



高齢者では6種類以上の投薬で有害事象の発生増加に関連したというデータがあります。



75歳以上の高齢者が1ヶ月間に1つの医療機関から処方される薬剤種類数は、約25%で7種類以上、40%以上で5種類以上というデータもあります。



高齢者は加齢に伴う生理的な変化によって体内で処方薬が効果を及ぼす程度が一般成人とは異なり、多くの薬を服用することがかえって薬物の有害事象を生じさせる大きな原因となっています。

これらを防止するために薬剤の管理を行うお薬手帳がありますが、薬局ごとに別のお薬手帳を使用するなど、適正な利用に課題があります。

当院では入院時に持参薬を確認させていただき、ポリファーマシーの解消に関しても取り組んでいますので、お気軽にご相談いただければと思います。